

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291200259		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	松戸グループホームそよ風		
所在地	千葉県松戸市馬橋530-2		
自己評価作成日	2021年10月6日	評価結果市町村受理日	令和3年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	令和3年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月15日の全体会議時に、職員研修を実施しており、サービスの品質向上を社内連携のもと取り組んでおります。感染症予防対策の徹底、医療機関や市担当者とも日ごろから連絡を密にとり、事業所の実情やケアサービスの取り組み、ご利用者様の身体的状況を積極的に伝え協力と信頼関係を築くように取り組んでおります。二ヶ月毎の地域運営推進会議ではご利用者様、ご家族様にも遠慮なく発言をできる環境を築いており、身体拘束・虐待防止への取り組みも報告しています。自立支援への取り組みも積極的に進めております。当社では、毎月の自立支援実績データがフィードバックされる仕組みとなっており、「ケアサービスの品質向上」に職員・チーム一丸となり、全力で取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1) 閑静な住宅街で敷地は広く、畑と花壇があり、建物の外周は歩けるように整備され、1周する間に10種以上の花が咲いていた。2)『笑顔は架け橋』との理念を掲げ、入居者と家族、職員、地域の方たちの間を取り持つものは、優しい笑顔であることを常に意識してチームケアの実践に努めている。3) 法人として「できることを増やす介護サービス」をめざし、毎月の自立支援データをフィードバックする仕組みを作っている。4) コロナ禍においても地域運営推進会議を2ヶ月に一度書面で実施し、開かれた運営に取り組んでいる。5) 今回のアンケートで「家族から見て全ての職員が明るく活き活きと仕事をしている」と全ての家族が回答している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の全体会議で、理念の共有確認をしています。	『笑顔は架け橋』との理念を掲げ、入居者と家族、職員、地域の方たちの間を取り持つものは、優しい笑顔であることを常に意識してチームケアの実践に努め、毎月の全体会議で確認し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所全体が地域の一員として日常的に交流ができるよう全職員が考えて行動しています。	道路脇の花壇を近隣の方たちと共有するなど日常のお付き合いを常に意識している。町会に加入し、コロナ禍以前は、敬老会・盆踊りに参加、小学校の職場体験や日舞・傾聴などボランティアの受け入れなど地域との交流を盛んに行っていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括と連携し「オレンジガーデニングプロジェクト(認知症普及啓発)」に参加しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では取り組み状況等について報告や話し合いを行いそこでの意見をサービス向上に活かしています。参加できなかったご家族様にも議事録内容を送付しています。	地域運営推進会議進行表に、活動状況、行事・事故・感染対策・面会対応・身体拘束適正化委員会報告等を議題として、家族、民生委員、近隣の方、地域包括職員、他施設管理者に書面を送付し、意見要望を聴取するなど丁寧な書面会議を2ヶ月に一度定期的で開催し会議を活かす取組みがされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と日頃から連絡を密にとり、事業所の実情やケアサービスの取り組みをつたえ、協力関係を築くようにしています。運営推進会議にも参加。行政の問い合わせ内容においてもすべて記録しております。	運営推進会議議事録などでホームの取り組みや実情を定期的に報告している。介護保険課担当者とはメールのやり取り、地域包括とは入居者情報なども含めて日頃から密に連携が取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切行いません。2ヶ月に一回身体拘束廃止委員会を開催。職員研修も年2回開催し周知徹底しております。	年2回研修を実施し、報告書を提出するなど周知徹底を図っている。身体拘束適正化・虐待防止検討委員会を2ヶ月に一度開催し、事例の有無、気づきの共有などを議事録に残し活用している。高齢者虐待防止セルフチェックなど、スピーチロックも含めて拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についても、事業所内で年二回研修を実施しております。事業所内での虐待が見過ごされることの無いよう、注意を払っており全職員に周知徹底しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだ不十分であると感じております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者や家族に、入居前の見学や問い合わせの際に十分な説明を行い、契約時にも理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では利用者や家族が意見要望をはっきりと発言できる環境を作っており、内容においても議事録を作成し反映させています。	行事や日常生活の様子が良く分かる笑顔満載のそよ風「写真便り」を毎月家族に送付し好評である。運営推進会議前に意見要望を頂くようにし、また議事録を家族に送付している。コロナ禍でもラインなどを活用して見える会話をするなどの工夫をしている。家族との繋がりを大切にし、敬老会・クリスマス会や周年祭など、家族参加の催しを積極的に実施していた。コロナ禍終息後、16周年を迎える周年祭などの再開が楽しみである。	さらに欲を言えば、「そよ風便り」にコメントを入れる工夫をされることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員の年二回の面談や毎月の全体会議時に運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させております。	毎月の職員会議の他、日常的に職員から意見要望を聞くようにしている。年2回の個人面談の他、職員の考えをアンケートし、ワークライフバランスに配慮するなど働きやすい職場環境作りに努めている。年間研修計画に基づき研修を実施し報告書を提出するなど職員の資質向上にも取り組んでおり、職員の定着率も高く、利用者アンケートでも、家族から見て全ての職員が生き活きと仕事をしているとの回答が100%だった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な全職員面談を実施して職場環境・条件の整備向上に努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月全体会議時に職員研修の実施他、社内での研修に積極的に参加できる機会を設け、成長のサポートをしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所開催の運営推進会議、研修等に出席して同業者と交流する機会を作り相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が、困っていること・不安なこと・要望に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、家族が困っていること・不安なこと・要望に耳を傾けながら関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族のきずなを大切にしながら、ともに本人を支えていく関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人からの電話連絡・手紙の発送・面会・地域の自治会での催し物への参加など、関係が途切れないよう支援に努めています。	今は主として電話の取次ぎや手紙の発送などで馴染の方との関係継続の支援に努めている。コロナ禍前には、老人会の友人、旅行友達、居酒屋友達などが訪ねてきたり、また、地域の敬老会や盆踊りで馴染の人と交流したり、ボランティアの方と新たな馴染ができ一緒にお花見などに出かけるなどの支援をしていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間で互いに支え合える環境づくり、(配席の考慮や職員が間に入った声掛け)に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了後も、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを尊重して、それぞれの生活リズムに合わせたサービスを提供しています。	ご本人の希望を叶えるため、定期的に地元の美容院にお連れしているケースがある。職員間で本人の状況を共有しケアに活かしている。意向の把握が困難な場合はご家族とも話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方を尊重した、居室環境でのサービス提供に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がよりよく暮らすための課題とケアのありかたについて、本人・家族・必要な関係者と話し合い、それぞれの意見を反映し、現状に即した介護計画を作成しております。	本人の状態が変化したり、ケアの方法が変わった時は随時ケアマネジャーに報告している。ケアマネジャーが職員に確認してケアプランとモニタリングを作成している。職員の気づきを共有できるよう「ヒヤリハット・気づきノート」を各フロアに設置している。	職員がケアプラン作成に関わる機会が増えるよう、気づきノートの活用を含めて検討されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果・気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりを尊重した柔軟なサービス提供にとりくんでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら、安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来るよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるようにしております。	主治医は往診医となっている。もともとのかかりつけ医へ職員と家族が受診同行しているケースもある。その他、皮膚科等への受診は家族か職員が同行している。医師の処置と指示は申し送りノートにより職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は情報や気づきを訪問看護師に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、安心して治療ができるように、又、早期に退院ができるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合にそなえて病院関係者との関係づくりを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでおります。	入居時に医療的ケアはできないことを伝えている。ご本人の状態が変化したときには、医師が家族と話し、家族の要望を聞きながら、ホームで出来ること出来ないことを伝えている。職員には看取り研修を行い、実際には毎年看取りケアをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員ではないが、定期的に職員研修他、応急手当や初期対応の訓練を行い、実践力を身に付けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害等の災害時に昼夜を問わず利用者が安全に避難できる方法を年二回の自主訓練を通して身に付けています。また地域との協力体制を築いています。	職員は災害に関する研修を受講し、報告書を提出している。夜勤の勤務者全員が夜間想定避難訓練を体験済み。避難時の連携に関して近隣の住民と話し合うことができている。水害の際は2階に避難する。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしています。定期的に研修もしております。	入浴や排せつ時はドアを閉めて他者から見えないようにし、失禁の際の声かけも配慮している。 日々のケアで職員の気になる発言があった際にはその場で注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人がおもいやりや希望を表したり、自己決定できるように職員は声掛けしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気の良い日には施設内散歩や外気浴など、一人ひとりの希望を伺い出来る限りの支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人、ご家族様の希望に沿い、出来る限りのサービス提供に努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食事ではないが利用者と職員と一緒に配膳の準備や食事片付けをしております。	フロアごとに手作りで、野菜の下処理や包丁使用でのカットなどを手伝う利用者がいる。エプロンと三角巾を着用し、ホットプレートで焼きそばを作ったり、おやつにたこ焼きを楽しむこともある。年に2回、嗜好調査アンケートを行い、硬さ、温度、味付け、盛り付けなどを聞き取りをしている。正月、敬老会、クリスマスはイベント食を、誕生日には手作りケーキを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月一人ひとりの自立支援データを作成しており、食事摂取・水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとり記録に残し、職員間で申し送りを行い支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアまたはお声掛けをしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をしっかり残し、排泄間隔を職員は共有して排泄の自立に向けた支援を行っています。	半数の利用者が自立している。おむつ使用、ポータブル使用もあり。退院後、約1カ月でおむつ使用からリハパンとパット使用に改善した方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘状況の申し送りを職員間で共有して飲食物の工夫や運動への働きかけなど個々に応じた予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日中9:00～16:00頃の間で入浴希望をとっています。できる限り、個々の希望に沿った支援をしています。	手すりが設置された一般的な個浴の浴槽になっている。入浴剤はハーブ系や温泉系など5種以上を揃え、ご本人に選択してもらい楽しみとなっている。シャワー浴となる方は足浴を併せて行っている。こだわりのシャンプーご使用の方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や休息時間は一人ひとりの生活習慣のペースを尊重しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、副作用や症状の変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションの楽しみ事や、散歩での気分転換等の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により実施判断は難しいですが、近所の公園やスーパーへの買い物、ドライブ、地域での催し物などには職員が付き添い、介助を行いながら積極的に今後も外出の支援を行って参ります。	ホームの外周が歩けるようになっており、天気がよければ散歩を行っている。施設前のゴミ拾いや草むしりを手伝う方、家族と散歩に出る方がいる。ご希望がある方の日々の外出量は継続できている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や散髪・買い物外出において、お金を所持したり使えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りが出来るように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間では季節感のある装飾や掲示を取り入れたり、施設の花壇の花を利用者と摘み取って飾ったりなど皆様が心地よく過ごせるよう努めています。	畑と花壇があり、建物の外周は歩けるように整備され、1周する間に10種以上の花が咲いている(10月訪問)。畑ではオクラ、紫蘇、ハーブ、里芋を栽培している。リビングは各フロアに二人掛けソファがあり、テーブルは感染症対策としてパーティションを設置している。リビングのテレビの音量は大きくなりすぎないように、利用者に聞こえるか確認しながら音量を調節している。照明は朝は明るくし、夕飯後には照度を下げている。リビングのテーブルなどの設置は車椅子の方が安全に通れるとともに、つかまり歩きの方の手すり代わりとなるよう動線を考え配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの状況に合わせた、配席検討やソファやテーブルの移動など行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具やカーペット・仏壇の設置等本人が心地よく過ごせるよう努めています。	居室は電気、エアコン、クローゼット、洗面コーナーが完備。居室入口にお名前が掲示されわかりやすくなっている。カーペット、ベッド、机、椅子、チェスト、テレビ、仏壇などを持ち込まれている。写真や絵を飾っている部屋もある。たくさんの段ボールとともに入居し、職員と一緒に片づけた方もいる。つかまり歩きや車椅子使用にともない、居室内の模様替えを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前に名前を付けて自分の居室がわかる様に支援したり、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫しております。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	チームで作る介護計画への参加意識の更なる向上	職員ひとり一人の気づきを介護計画に反映させるよう工夫し、全ての職員が介護計画作成に関わっていると意識できるようにする。	1)介護計画を常に見易いよう工夫する。 2)ケア中の気づきなどを簡単にメモし、共有できる工夫をする。 3)介護計画に職員の気づきが反映されていることを共有する。	6ヶ月
2	6	「そよ風便り」にコメントを入れる等、内容の更なる向上	「そよ風便り」のコメントを多く入力して、行事や日常生活の様子が更に良く分かるように取り組んでいく。	「そよ風便り」担当者の更なるPCスキルアップ向上を図って取り組んで参ります。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。